千八百七十六年

新潟港貿易報告

大藏省飜譯課

3418

114
A 3142
141

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

千八百七十六年（明治九年）間新潟港貿易報告書

謹テ昨七十六年間ノ當港貿易報告書ヲ進呈スル

ニ際シ今茲ニ報告スルニ足ルベキ顕然タル

英国貿易ノ之レナキハ稍成規ニ觸ル、所アリ

トスルナリ其然ル所以ノモノハ昨七十六年間

ニハ一艘ノ英船ダモ當港ニ来着セサリシト一

人ノ英商モ曾テ當港ニ居留セサリシトニ因ル

モノトス○假令ヘ貿易ヲ為スアリ英国ノ利害

得失自カラ之ニ關スル所ノモノ少キハ皆英

商ノ貿易ヲナスニアラスシテ宜シク他商ノ為ス
所ニ係リ若シクハ土着商カ英品ヲ以テスル一
層間接ノ貿易ナルニ外ナラス
然ルニ此報告書中ニ於テハ昨年間一般貿易ニ
付キ余カ聞知シ得シ處ノモノヲ具載シ加之千
八百六十九年初メテ当港ニ於テ外国貿易ヲ開
キシ以来今日ニ至ル迄ノ当港貿易ノ概況ト當
地方諸物産等ノ景況及ヒ当港ノ現況トヲ登録
セントス蓋シ此等ノ事ハ頗ル有益緊要ノモノ
ナルベシト余カ信スル處ナリ

通商貿易ノ事

新潟港ノ貿易ハ横濱ヨリ外商ノ回送スル外国
品ニ於ケル貿易ト外国市場ニ輸送スル為メ外
商ノ要求スル物産ニ於ケル貿易トノ二者ヲ除
ケハ純然タル内国貿易ト云フモ可ナリ
余爰ニ日本氣船ヲ以テシタル輸出入表ヲ添付
ス然ルニ日本形船ヲ以テシタル輸出入ニ付テ
ハ更ニ官府ノ書留之レナキヲ以テ右ノ輸出入
表ヲモ記シ以テ昨年間ノ全貿易ニ付完全ノ書
載ヲナスニ由ナキハ余カ遺憾トスル処ナリ然

リト雖ドモ私ニ此等ノ一ヲ記載シタル者ニ就キ一表ヲ製シ以テ日本形船ヲ以テシタル重モナル輸入品ヲ載録ス

此等ノ諸表ニ載スル所ノ品類ニ就テハ極メテ些少ノ弁論ヲ要スル而已今試ニ其一二ヲ掲ケン流船ヲ以テ輸入シタル石炭油ハ佐渡島礦山閑鑿ノ為メニ使用セシモノナリ○亜米利加油ハ最キニ当地方ニ於テ使用スル為メ頗フル小額ノ輸入アリタル而已ニシテ目今ハ輸入セス○精製ノ茶ハ日本国内他ノ場所ヨリ当港ニ輸入スル○清港ヨリ輸出シタル銅ハ久佐倉礦山ヨリ堀出セシモノナリ尤モ此礦山ノ総産出高ハ啻ニ右輸出高ニ止ラス

越後産石脳油ノ小量ヲ流船ニテ輸出セシ外ニ又日本形船ヲ以テ輸出セシモノ少シクアリシト雖ドモ其量多ノ儕テ知ルヘキ處ニアラス○千八百七十五年当国ニ於テ洪水アリタルヲ以テ自然米ノ不足ヲ生スヘシトノ先見ヨリシテ昨七十六年ノ初頭ニ當リ当港ヘ米ヲ輸入セリコハ実ニ日本人ノ前代未タ曾テ記憶セサル所ナ

リト信ス昨年十月十一月ノ両月ニ於テ日本形
船ヲ以テ凡七万擔（ピコル 壱擔ハ我十六貫目）ノ新米ヲ輸出セリ
余之レヨリ去ル八年間ノ一般貿易ノ主旨ニ移リ
余カ明知シ得ル丈各年間諸船ヲ以テ輸出セシ
品物ト輸入セシ品物トニ付其総額ヲ別表ニ登
録シ加フルニ各年間輸入セシ二三ノ重モナル
品物ノ高価ニ値格ノ比較及ヒ各年間輸出セシ
米ノ高価ニ値格ノ比較ト別表二葉ヲ以テス
顧フニ此等ノ諸表ヲ以テ之レヲ観レハ当港ニ
於テ俄緊要ナル貿易ノ相存スルヲ証スルニ足

ル仮令ヒ時々非常ノ増減之レアルト雖モ結局
ニ於テ著シク符合スル呼トナルナリ殊ニ二三
ノ重モナル品物ニ於テハ尚然リトス
尤モ若干年間輸出貿易高ノ減少アルハ畢竟米
ノ収獲不足セシニ因ルモノトス蓋シ閣下兼テ
聞知スルカ如ク米ハ当国ノ重モナル産物ニシ
テ輸出品ノ重モナルモノナルヲ以テナリ
此等ノ諸表ニ據テ観レハ当港ノ毎年輸入貿易
高ハ平均百六十八万七千八百十九弗ニシテ輸
出貿易高ハ平均百三十三万四千九百壱弗ニシ

テ即チ輸出入ヲ合シテ毎年ノ貿易高三百二万
二千七百二十弗ナルヘシ○此等ノ
諸表最モ有益ナル結果ヲ示シ其数少カラスト
雖ヒ就中外国製産ノ二三主品連年輸入アリ即
チ該表ニ據レハ釘鉄大約三千擔、砂糖一百八千
擔若クハ一万九千擔及ヒ生綿三千五百擔乃至
五千擔当港ニ於テ消費ノ為メニ毎年輸入アル
ヿ判然タリ○若シ糸当国ヘ廻送ノ木綿糸及ヒ
其他ノ木綿織物ノ員数等ヲ此等ノ諸表ニ加載
スルヿヲ得シナバ大ヒニ有用ナルヘシト雖モ

此等之諸品東京ヨリ海上回シノ高ハ東京ヨリ
陸地回ノ分ト比較スレハ極メテ僅少ニシテ海
上回シノ分而已ヲ示サバ当港近傍ニ於テハ該
二品ノ消費ニ付テ全ク事実相違セスンハアル
ヘカラス然ルニ不幸陸地回ノ分ヲ精密ニ記載
スルヿ能ハスト雖モ外国産木綿糸ハ年々ノ輸入
高凡ソ四千擔ヨリ六千擔迄ト算シテ可ナリ其
他木綿織物ノ類ヲ掲クレハ金巾、小幅金巾、緋金
巾、雲斎、綿天鵝絨、寒冷紗、毛織物及ヒ交織物ノ類
ヲ掲クレハ「オルレン」「ブランケツト」縮緬呉呂及

ヒ羅紗ノ輸入アリ

末表ハ輸出米ヲ記載スルモノニシテ平年當港ヨリ輸出スル米平均殆ント四十万擔ナルヿヲ示ス但シ此米ハ重モニ大坂ト北海道トヘ向ケ積ミ出スヿ所ニ係ル尤モ右ノ中少々ハ又邦内他ノ場所ヘ輸送スルナリ

抑此米ノ末曾テ外国ヘ輸出ノ一品トナラサル源因ハ蓋シ一ハ色方ノ完全ナラサルニアリト雖モ要之当港ハ海路ノ交通大ニ困難ヲ極ムルヲ以テナリ○當国輸出米ノ内若干ハ當海岸ノ諸港ヨリ輸出スル所ニ係ル

日本第四国立銀行ノ一支店譯者按スルニ本店ノ誤ナラン一ヲ当港ニ設立セリ是ヲ以テ東京横濱ニ向ケ為換ヲ取組ム為メ更ニ一層ノ便益ヲ清商人ニ與フルナリ

船舶出入并ニ航海ノ事

第茲ニ添付スル等ノ別表ハ則チ当港ノ初メテ外国貿易ノ地トナリタル以来当港ヘ入津ノ諸商船ノ艘数ト噸数トヲ示スモノナリ是ニ依テ昨年日本船ノ外苟モ一船タモ当港ニ来着セザ

リシヿヲ観視スヘシ

前数年間ニ於テハ外国船舶屢々出入アリタリト雖モ目今ニ至リテハ全ク三菱商會獨リ航海ノ業ヲ専握スル所トナレリ

抑當港ノ貿易タル平素沿海貿易タリ蓋シ沿海貿易ヲ為スニハ突然同業ノ外国船舶ヲ以テセンヨリ内国ノ一商會ヲ以テセハ衆庶ノ為メニ一層良善ナルヘキヲ観察シ余ハ該業ノ獨リ三菱商會ノ専握スル所トナリシヲ敢テ遺憾ト思ハス然レモ茲ニ同陣セズンハアルヘカラザル

モノアリ即チ三菱商會カ其汽船ノ運轉方ニ於テ須ラク規定ヲ厳守シ併セテ其汽船発着ノ廣告ヲ廣ク衆庶ニ知ラシムルヿヲ得ルアラハ兼テ當港ト汽船往復ノ業ヲ永續セシメントシタルニ付大ニ実效ヲ奏スル而已ナラス尚ホ且ツ出入相償フテ餘リアルニ至ルヘシト信ス○昨年間当港ヘ入船ノ汽船ハ其運賃ヲ以テ其費用ヲ償ヒ得シトハ信シ難シ(仮令ヒ該船船ハ新潟ノ外尚ホ北西ノ海岸ニアル諸港ヘ向ケ及ヒ諸港ヨリ多少ノ船貨ヲ運搬セシトハ雖モ)○一体

談商會ノ運賃ハ頗フル不廉ナリ若シ彼輕量階
品則チ外国産木綿織物及ヒ茶ノ如キ品物ニシ
テ当地ヨリ横濱ニ至ル迄未タ嘗テ海路ヲ経タル
コトナク陸地ヲ回送スルモノト相競争シ全タク之
レヲ海路ニ運送セシメント欲セハ啻ニ其流船
ノ運轉上規定ヲ履踐スルノミナラス尚ホ其運
賃ヲ低クシテ陸運ノ費用ヨリ安廉ナラシムコ
リ談商曾ニ取リ緊要ナルヘシ
昨年間一方ハ当港ト兵庫トノ間ニ往復シ一方
ハ当港ト箱館トノ間ニ来往セシ流船ハ僅カニ

三四艘ニ止マルノ已ノ但シ箱館ヘ航直ハ流船ハ
同港ニ於テ仝港ト横濱トノ間ニ往返スル流船
ト連結ス又此等ノ流船南西ハ下開敷賀及ヒ越
中ノ府開ト北東ハ秋田ノ船川ト往復ヲ為スナ
リ蓋クハ此流船往復ノ業務未永續シ諸事一層
改進シテ従前ヨリモ尚ホ発達セシムヘキヲ
希想フニ曾テ左ノ主旨ニ付緊要ナル建言ヲ為
セシモノアリ今爰ニ之レヲ写出スヘシ即チ其
建言ノ主旨ハ蓋シ新潟港ノ貿易ヲ振興スルノ
最モ良策ハ当港ト箱館トノ間ニ一流船ヲ往復

セシノ以テ箱館ニ於テ横濱行ノ汽船ト之レヲ
連結セシムルニアリ但シ其汽船ハ充分吃水ヲ
軽クシテ目下ノ河流内ニ入込ミ得ヘキ様造製
シ且ツ蒸汽力モ適宜タルヘシ
此ノ如キ汽船ヲ以テセハ又遠ク敦賀迄モ伴復
シ得ヘシ而シテ敦賀ヨリ琵琶湖通リノ道路愈
実效ヲ奏スルニ至ラハ京都ノ鉄道ト相連結シ
得ヘシ
余カ前文ニ既ニ記載セシカ如キ汽船ハ仮令ヒ
何等ノ事情之アルモ四季間断ナク往復シ得ベ
シ加之従前ノ如ク徒ニ危險ヲ冒カシテ当港
ノ暴露タル碇泊場ニ錨ヲ下スノ憂之レナキナ
リ
熟
墾船舶出入表ヲ熟視シ来レハ尚ホ一歩ヲ進メテ
注目スヘキモノアリ他ナシ日本形船ノ艘数結
局増加ノ勢ヒナリシニ其噸数ハ絶ヘス減少ア
ルヲ看ル亦是レナリ然ルニ輸出入比較表ヲ一
見セハ日本形船ヲ以テシタル貿易ノ價値ハ噸
数ト均シク減少ヲ致サヽル亦明了ナラン是ニ
由テ之ヲ觀レハ前年ハ今年ヨリ噸数一層巨額

タリシ日本形船ヲ以テ行フタル貿易ノ全額ヲ
近年ハ頓数前年ヨリ尚少ナキ日本形船ヲ以テ
行フタルヿ判然タリ畢竟此頓数ノ減若ハ当港
ノ河口ニアル沙洲ヲ渡ルニ際シ小形船ノ方適
宜ナルヿヲ発明セシニ由ルト云ヘリ此弁解ハ
外見ヨリシテ之ヲ視レハ稍信スヘキニ似タリ
ト雖モ余ハ之ヲ信トセス○当港ノ頓数ノ減少
セシヿ総高千八百七十頓以下ナリ
新潟ノ港ハ依然貿開港ノ日ニ於ケルカ如ク均
シク船舶出入上不便利ノ形状ナリ○開港ノ年

築造セシ税関ノ陸揚場ハ今泥土堆積スル処ト
ナリ到底其用ニ供シ難キ程ナリ然ルニ未タ一
ノ陸揚場ヲモ築造セス○貨物船積荷ニ陸揚ノ
節共両便ニ用ヒル為ノ二艘ノ小蒸流船アリ右
ノ内一艘ハ千八百七十年ヨリ七十一年ニ至ル
迄東港ニ在リタル一船舶ニシテ頓数ハ九十頓
ナリ該船ハ貨物船積荷ニ陸揚ノ用ニ能ク適應
スルモノト雖モ惜ムラクハ目下蒸流力頗フル
薄弱ニ帰シ静和ノ天日ニアラサレハ何事ニ之
レヲ使用スルモ危険ヲ免レサル程ナリ去レ

該船ハ尚修理ヲ加フルヿヲ得ヘシ残リ一船ハ最前東客船ニシテ貨物ノ船積ニ陸揚ノ用ニ供スルニハ余リ軽キニ過ル程ノ製造ニ係ルモノヽ如シ故ヲ以テ是迄漸ク該船ヲ北用ニ供セリ

嘗港ノ燈明臺従前ノ分ハ既ニ用ニ供シ難キニ至ルヲ以テ近頃假ニ一燈臺ヲ新築セリ○沙洲通船ノ本道ハ絶ヘス変轉シ一年ニ両度其幾深ヲ測量スルヿトス本年一月十日之レヲ測量セシニ此日水浅フシテ此船路ノ深サ七「ヒート」半ニシテ其幅ハ百二十「ヒート」上以上ナルヿヲ看出セリ

東港ヲシテ新潟ノ補助港ト為シ九ツ新潟ニ入リタル船貨ノ陸揚ト新潟ヨリ出ツル船貨ノ船積トヲ東港ニ於テ為サシメントシタレトモ事遂ニ行ハレサリキ仮令ヒ東港ハ秋冬ノ候暴風吹来ルモ能ク之レヲ防クニ足ルノ港タルト雖モ波浪ノ海岸ニ打上ケルヿアルヲ以テ到底新潟港ニ於テ不天気ハ為メニ船貨ノ陸場ニ船積ヲモ為シ難キノ日ニ於テハ東港モ均シク船貨

ノ陸揚モ、船積ニモ両ツナカラ之ヲ為スヿヲ難
シトス然ルニ若シ新潟港ニ在ル外国人
居留地ノ條約中第四款ニ載録スルカ如ク船路
ヲ堀深メテ同港ノ裏面ニアル湖水ト通路ヲ開
カバ此船質ノ陸揚ト船積トニ付テノ困難ヲ治
シ得ヘキヿ敢テ疑ヲ容レス然ルニ東港ト當港
ノ間ニ商品ヲ運搬スルノ不便ト費用トヲ密
知シ苟モ当港ノ貿易ニ関渉スル者ハ皆斯ル事
業ヲ起スヿニ不同意ナリシカ余ヲ以テ之レヲ
観ルニ日今ニ至リ初メテ経験上ヨリ此等ノ事

業ヲ東港ニ起サンヨリハ寧ロ新潟ニ於テ直チ
ニ船積スル為メ新潟港ニ手入ヲ為シ新潟港ノ
貿易上ニ便易ヲ與フル為メニ仮令ヒ何等ノ費
用ヲ生スルモ之レヲ出ス方宜シカルヘキヿヲ
充分ニ明証セントス
別表第八号ハ千八百七十三年ヨリ七十五年ニ
至ル迄当国ノ諸港ニ於テ造船セシ五十石積以
上ノ日本形船ノ艘数ヲ載録スルモノナリ新潟
ハ此造船ノ業ヲ営ム重モナル場所ナリト雖モ
別表中載スル所ノモノヽ内ニハ今町其他日本

形船出入ノ諸港ニ於テ造船セシ日本形船モアリ

別表ニ據テ之レヲ視レハ新潟ハ内国貿易ノ地トシテ緊要ナル以テ証スヘシ実ニ新潟ノ今日相存立スルノ所以タル第一ニハ其開港場タルヿト是迄久シク当海岸ニ於ケル貿易ノ要地タリシヿトニ據ルモノトス目今新潟港ノ日本形船ハ冬季九ヶ月ヲ陸クノ外ハ北西ノ海岸ニアル諸港ト断ヘス来往シ又一方ハ北海道一方ハ大坂ト引續キ貿易ヲナスナリ

農業ノ事、礦山ノ事、人口及ヒ殖産ノ事、其外ノ事表別第九号ハ当国地方ニ於ケル二三主品ノ毎年ノ産出高概算ト新潟縣所轄内ニテ米、小麥、大麥及ヒ其他穀類ト茶トヲ耕植スル土地ノ坪数ヲ記載セシモノナリ尓又別紙畧圖ヲモ進呈ス古ハ僅ニ津川周圍ノ地方ヲ除クノ外新潟縣所轄内越後ノ要地ヲ示スモノニシテ此地圖ニハ務メテ今年カ論及セントスル所ノ品物ヲ産出スル要地ヲ載セタリ但地圖中唐ニ礦物ノ名目而已ヲ書シタルモノハ礦物現ニ相存スルト雖

モ未タ閲覧ニ着手セサル分若クハ礦物相存ス
ルト云フ迚ニシテ実際如何ヲ未タ示知セサル
分ヲモ云フナリ既ニ古人ノ能ク知ルカ如ク米
ハ当国ノ重モナル物産タリ別表中載スル所ノ
産出概算高ハ即チ三百三十万擔ニシテ此高ヲ
以テ実ニ毎年ノ産出高平均ト知ルヘシ尤モ右
高三百三十万擔ノ内凡ソ六十万擔ハ平年輸出
スル所ニ係ルモノトス
毎年ノ出産高其レ斯ノ如シト雖モ往々此高ヨ
リ上ル事アリ巨額ニ至ル事アリトス然ルモ時々河

水膨張シ為メニ田畝ノ水災ニ罹リ収獲ヲ傷害
スル事ナカラス例セバ千八百七十五年ノ水
災ニ於テルカ如シ○昨年ノ収獲モ平均額ノ上
ニ出テタリ是ニ由テ之ヲ観レハ次季当港ノ内
国貿易ヲ挽回スル期シテ俟ツヘキナリ○米ノ
外通例輸出スル諸穀類ハ米ニ比スレハ一層僅
少ナリ○米ハ又羽前庄内及ヒ常海岸ニアル他
ノ諸地方ヨリ引続キ輸出スルモノトス
当国ニ於テ産出スル茶ノ内僅カニ二千擔ヲ下
ル高東京及ヒ横濱ノ両地ヘ輸送スル所ニ係ル

尤モ古ノ中一部分ハ当港ニアル外商ノ手ヲ経
一部分ハ日本商人ノ手ヲ経テ運搬スルモノナ
リ○当国ニ産出スル茶ハ之レヲ三等ニ別ツ即
チ上等中等下等是ナリ
○茶ハ軽量ノ品物ナルヲ以テ数次当国ヨリ陸
路ヲ経テ之レヲ東京ヘ輸送ス○村上産ノ茶ハ
瀬浪ヨリ日本形船ニ積込ミ新潟ヘ回送シ同港
ヨリ蒸汽船ニ積込ムカ若クハ陸路ヲ経テ横濱
或ハ東京ヘ輸送スルモノトス
余昨年村上ヲ巡回シ該地ノ茶師ニ因リ重要ノ

耕茶地ニ誘ハレ一見スルヲ得タリ茶師余ニ語
テ曰ク此等ノ茶木ハ大概年ヲ経ル一五十年ヨ
リ一百年間ニ渉ルト尤モ該地ノ耕茶ニ着手セ
レハ尚之ヨリ一層永遠ノ歳月ヲ経過セシト
云フ
尤モ是迄二十年以内ニ植付ケタルモノ餘程多
ク耕茶ノ業年々擴張ノ勢アリ○茶木ハ何レモ
皆丈短フシテ夏高サ一尺半ヲ出ツルモノ稀シ
ナリ○村上旧城下内外ニテ茶ノ耕植方ト製造
方トニ従事スル者凡ソ三千人アリ○茶葉ヲ摘

ムヿ一般ニ年中五回トス○仮令ヒ全地均シ
為ス所ニアラスト雖モ雪中蘭ヲ以テ茶木ヲ掩
フモノハ茶葉一層良善ナリ○茶葉ノ製造方い
恰モ南方諸国ノ一層緊要ナル茶地ニ於テ施行
スル手續ト同一ナルモノヽ如シ
数年以前老練ノ製茶師数名ヲ山城国宇治ヨ
リ該地ニ聘シ製茶ノ事業ヲ傳授補助セシメタ
リシガ其時以来製方頗ル進歩シ大ニ其效ヲ奏
セリ
村松及ヒ新津ノ耕茶地景況モ前文ニ述フル所

ト僅カニ異変アルノミ村松、新津ノ両地何レモ
耕茶ノ業擴張シ隨テ近年製茶ノ法進歩セリ○
黒川ノ耕茶師モ又其製産スル茶ノ声價ヲ上ケ
シヿヲ希望スルニ似タリ○該地ノ茶木多クハ
五十年以上ノ星霜ヲ経又中ニハ一層年若ノモ
ノ澤山之レアリ尤モ茶聞ク黒川茶ノ香味い稍
障妨トナルモノアリト世人往々之レヲ評シテ
コハ該耕茶地ニ石脳油ノ接近スルニ由ルト云
フ
新発田ニ於テモ大約五六年以来ヨリシテ耕茶

ノ業ニ頗ブル心ヲ傾ケリ

越中及ヒ加賀ニ於テモ又茶ヲ産出シ其高ハ他ヘ輸出スルニ足ル程ナリ但シ其産出高ハ四千擔ヨリ五千擔ノ間ナリ

堀ノ内栃尾及ヒ其他ノ諸地ニテ産出スル生糸ハ信州糸ノ如ク陸路ヲ経テ横濱ヘ輸送スルモノトス〇二三年以前該地ノ養蠶家輩越後糸ノ声聞ヲ起サシトシ動揺セシヿアリタレトモ若シ此輩ノ糸ヲシテ信州糸ノ如ク提糸ニ制衣スルヤ

ハ横濱ニ於テ容易ニ賣買ニナルヘシト安心セシヲ以テ頓ニ就キシニ似タリ〇蓋シ越後糸ノ中村上産ノ分米澤ニ行キ奥州糸トノ常市場ニ来ルナリ〇概算ニ依レハ毎年越後糸ノ横濱ニ輸送スル高大約五百擔ニ及フトヽ云フ〇一昨年五泉ニ一場ノ紡糸所ヲ設置セリ尓来海外ヘ輸出スル糸ハ悉ク皆同所ニ於テ製造スル所ニ係ル米澤及ヒ其他越後国境ノ諸地方ヨリ産出スル生糸ハ有名ノモノナリ其外又越中及ヒ加賀ニ於テモ生糸ヲ産出ス但シ加賀ノ小松糸ノ如キハ極上品トヽ人ノ唱フル処ナリ尤モ加賀ヨ

リ産出スル糸ハ左程巨額ニ上ラサルモノヽ如シ然ルニ越中ノ産出高ハ四百擔以上ナリト云フ

其他尚越後ノ耕植産物中當港ヨリ輸出スルニ足ルモノハ麻、菓物、菜種及ヒ日本製藍靛ノ類ナリトスフモ可ナリ

山形縣下諸地方ニ於テハ隨分手廣ク煙草ヲ産出ス

越後ノ礦物ハ其類多クシテ且ツ廣大ナルカ如シ余勉メテ越後光ニ秋田其外ニ於テ産出スル銅及ヒ其他二三ノ礦物ニ付其毎年ノ産出高ヲ精密ニ取調ベタリ

目下諸礦山産出高ノ総價ハ頗ル巨額ナラス然リト雖モ輓近一層産出多キ礦山ニ於テ開鑿ノ法昔日ヨリ進歩シタルト他ノ礦山ニ於テハ極メテ古法ヲ用ユルトヲ参考シ来レハ後来諸礦物ノ産出巨額ニ至ルニ相違ナカルベシト思考スルナリ

越後ノ久佐倉ニアル銅山ハ輓近日相馬藩主ノ所有ニ屬セリ凡ソ此銅山ヨリ産出スル所ノ銅

ハ津川ヨリ水運ヲ経テ容易ニ当港ニ輸送スル
モノトス
輓近此銅山ト津川トノ間ニ良道ヲ取設ケタレ
バ此銅山愈々好景氣ニ至ルヿ瞭然タリ
秋田銅ハ当港ニ輸入セス右ハ船川ニ於テ前文
既ニ記載セシ蒸流船ニ積込ミ東京又ハ横濱ヘ
回漕ス
佐渡ニテ産出ノ銅ハ嘗ニ金銀ノ地金中ヨリ分
析シテ出スモノニ係ル○秋田礦山モ又金銀及
ヒ鉛ヲ産出スル多ハ佐渡山ノ如ク政府ノ為メ
ニ開鑿スルモノナリ
越後ニ於テ巨額ノ銅ノ存在スルヿ実ニ疑フ容
ルヘカラス既ニ当国ニ三ノ地方ニ於テハ夏地
ニ居住スル農民輩銅脈開鑿ノ事ニ着手スルア
リ尤モ其法甚タ不完全ナリ
農民ノ着手スル其レ此ノ如シト雖モ兎ニ角資
本金ノ不足ナルト開鑿ノ法完カラサルトノ此
二者ハ此事業ノ実效ヲ奏スル為メニ無量ノ妨
碍タリ
新潟縣内諸礦山中金銀ヲ生スル重モナル場所

ハ彼ノ有名ナル佐土山ナリ○先年日本ヨリ米国「ヒラデルヒヤ」府博覧會ヘ差送リタル出品目録ノ附録中ニ載セタル佐土山并ニ秋田山ニ係ル事ト其景況トハ近頃出版ニナリタリ依之今茲ニ之ヲ寫出スルハ敢テ不用ニ屬スルニ似タリ故ニ復タ警言セス然リト雖ヒ茲ニ又一事ノ記載スベキモノアリ即チ昨年間非常ノ勉強力ヲ以テ佐渡山再開発ノ事業ニ着手シ已ニ其結果極メテ満足ナルヲ得タリ若シ此進歩ノ度ヲ退却セスシテ永遠ニ係ツアラハ此上尚二ケ年以内ニ於テ佐渡ノ礦山充分ノ開発ニ至ルハ期シテ俟ツヘキナリ蓋シ開発能ク行届クニ於テハ其結果却テ豫算セシ所ノモノヨリ寧ロ巨大ニ至ラン

柳佐渡山ノ事業ハ日耳曼国ノ礦山測量師一名ト直轄スル所トナリ尚之レニ次クニ英国ノ礦夫一名アリ以テ該日耳曼人ノ事務ヲ補佐ス新規ノ分析法即チ金銀分析術、製合術、鎔鑛術ノ類ハ既ニ昨年間行フテ效アリ尤モ右ノ内鎔鑛術ハ鎔解用物品ノ不足ナルヲ以テ僅カニ成

否ヲ試験セシ迄ニ止マレリ尤モ当年ヨリ断ヘス收鑛解用物品ノ供給アルハ必セリ矣

近頃ニ至ル迄米国ノ鍛金師一名鑛解局長タリ又英国機械師一名雇入レラルヽ所トナリテ製造所ノ諸務ヲ総理スサテ收製造所中ニハ鉄匠アリ大工アリ機械師アリ以テ右等ノ諸術施行ノ際要求スル所ノ機械ノ小尺ヲ製造シ供セテ諸機械ノ修理ヲ行フモノトス

昨年ニ於テハ未タ鑛鑄術充分ニ行レサリシヲ以テ巨額ノ鑄費ニ存セリ今ヤ收術盛ンニ施

行中ニシテ尚オ漸次礦山ヨリ産出スルアリ実ニ昨年ニ於テハ此鑛鑄術ノ充分ナラサルヲ以テ勿論金属純價ハ巨額ニ及ホサヾリシ尤モ当年度ノ産出高ハ非常ノ進歩ヲ生スヘキヤ疑ヲ容レス試ニ昨年即チ千八百七十五年ヨリ七十六年ニ至ル一周年間ノ産出高ヲ掲ケンニ僅カニ金三十五斤收價ヒ一万三千七百弗銀十三擔半此價ヒ三万七千四百七十二弗ニ至リタル而已然ルニ同年間秋田山ノ産出高ハ金六十三斤此價ヒ二万三千七百九十弗銀四十七擔八十斤

此價ヒ十貳萬貳千百六十七弗ニ及ヒタリ

近来越後ニ於テ石脳油ノ産出所影多開産スル所トナレリ先ツ目今石脳油ヲ出ス重モナル地方ハ当国ノ西方ニ於テハ高田ノ近傍建野ナリ同所ニアル石脳油井ノ数大約五十六ケ所其深サ三百「ヒート」ヨリ六百「ヒート」ニ及フ

抑モ其油ハ極メテ純精ニシテ生油百分ノ内九十分ハ精製ノモノナリ

之ニ次クハ松山ノ石脳油井ナリ其数大約六十ケ所其深サ又三百「ヒート」ヨリ六百「ヒート」ニ至ル同所ノ生油百分ノ内精製ノモノハ大約八十五分ナリ

妙法寺近傍又九ツ二十五ケ所ノ石脳油井アリ尤モ其油ハ純精ナルヽ稍々松山油ヨリモ劣ルモノトス

当国ノ東方ニ於テハ新津近傍ト草生津及ヒ金津トノ三ケ所ニ石脳油ヲ産出スルナリ尤モ草生津村（土人石脳油ヲ呼テ草生津油ト云フハ原ト此村名ヨリ出ヒモノナリ）ノ井ハ当所油ヲ取ラス○金津ニハ唐ニ僅少ノ溝アルノミニシテ

其深サハ漸ク二「ヒート」ヨリ三「ヒート」ニ至ル是ヲ以テ仮令ヒ同所ニ於テ少量ノ油ヲ産出スルトモ其産出費ハ僅カニ之レヲ収集スルノ費用而已

熟惟ミルニ凡ソ石脳油ハ自然野ニ湧出スモノヽ如ク○黒川ニ於テハ石脳油井ノ数大約一百アリ其深サ六十「ヒート」ヨリ百二十「ヒート」ニ至ル○其生油百分ノ内精製ナルモノハ僅カニ大約五割ノミ是ヲ以テ此ノ油ハ当国ノ西方ニ於テ産出スルモノト優劣ヲ争フニ足ラサルモノトス

此等石脳油ノ精製方ハ場所ニ依リ或ヒハ其油井ノ近傍ニ於テ取行フ処アリ○長岡ハ又同所ヨリ新潟及ヒ其他当国ノ諸地方ヘ水運ノ便利之レアルヲ以テ石脳油ヲ精製シ以テ之レヲ貿易スルノ最大地位タリ○新潟ニ於テモ之ヲ精製スルヿ之レアリト雖モ如何セン其製法タル多クハ単ニ「ドライ、ビスチレイシヨン」水ヲ用ヒスシテ只其蒸溜物ノミヲ以テ蒸溜スル一ノ法ニ止ルヲ以テ蒸溜ノ後モ尚ホ充分ノ精製ニ

至ラス然リト雖モ極上製ノ油ヲ善良ノ「ランプ」
ニ用ヒ之レニ火ヲ點スルトキハ自カラ其火焔透
明堅固ナルヲ覚フ是ニ由テ之ヲ觀レハ当国ノ
石脳油モ其精製方宜シキヲ得ルニ於テハ彼ノ
米国産極上ノ石炭油ト品質ヲ同フスルニ至ル
ヤ殆ント疑ヲ容レスO現今ニ於テハ廣ク当地
方ニ於テ此石脳油ヲ使用スルヽナリ現ニ米国
産ノモノヲ逐ヒ退ゾクルニ至レリ其外尚ホ小量ノ
油ヲ他ノ諸地ヘ輸出セリ
以上ハ僅カニ石脳油ノ概況ヲ略記セシ迄ナレ

モ安石脳油産出ノアハ一層注目スルニ足ルモ
ノナリ
秋田モ又石脳油ヲ産出スルノ地タリ余カ秋
田石脳油ノ事ニ関シ篤ク教示ヲ得タル処ニ依
レハ一ケ年間一地方ノ産出高生油大約四万七
千「ガルロン」(一「ガルロン」ハ大略我二升五合)ニシ
テ其内精製油ハ一万一千「ガルロン」以上ニ至ル
トヽ云フ
石モ山形縣下ニ於テ其他数ケ所ノ石脳油ヲ産
出スル場所ヲ発明シ現ニ製法ニ着手スルアリ

又信州ニ於テモ石脂油ヲ発見セリ但シ同所ノ
産出高日ニ生油三百五十「ガルロン」ニ及ブト云
フ
当国ノ諸地方ニ於テ石炭ノ之レ在ル丶象徴ク
之ヲ知ル然リ然レモ是迄頗フル小量ノ石炭ヲ
取リ久ル場所ハ豊ニ赤谷山ノ一地方アルノミ
余昨年安山ヲ巡廻シ以テ原ト安山ノ石炭ハ当
時石炭ヲ堀出ス礦口ノ上ニ方リ稍高ク一口ヲ
開ヒテ堀出セシモノナル丶ヲ発明セリ然ルニ此
ノ上口ヨリ出ス所ノ石炭ハ其品質下等ノモノ

ナルヲ以テ即チ當時ノ礦口ヲ更ニ開キ以テ二
ケ年以上此礦口ヲ経テ石炭ヲ堀出セレト尓
ハ思考スルナリ
其礦口ノ高サ大約六「ヒート」其幅モ大約之レト
相同フシテ内部ノ石炭ヲ堀拓キ坑内ヘ入込ム
丶地平ナリ其深サハ入口ヨリ大約三十「ヒート」
ヨリ四十「ヒート」ニ至ルト尓ハ量カラサルヲ得
ス
入口ヨリ三四十「ヒート」入込ミタル後四方八方
ニ小路ヲ鑿リ其深サハ大約一百「ヒート」ニシテ

上下左右ニ石炭アルモノトス
僅カニ一方丈礦脈ノ外迚一小路ヲ鑿開キタル
所アリ聞ク此小路ハ以テ坑内ニ空気ヲ入レン
為メ礦穴ヲ造クルカ為メニ鑿開キタルモノナ
リト
千八百七十四年一名ノ測量師此礦山ヲ巡廻セ
シ丁アリ其記行ニ云ク此山ノ石炭ハ当時迚富
色ニシテ二條ノ豊富ナル礦脈ヨリ成リ脈線相
互ニ平行ニシテ且ツ其ノ厚サ大約二十「ヒート」ナ
リト

此炭坑開鑿ノ業ハ私ニ営業スル所ニ係リ其事
業タル極メテ手狹ノ之レヲ為スナリ
余曾テ聞ク現今ニテハ僅カニ注文ヲ受ケタル
高丈ヲ供給スルノミニシテ其他ハ一切堀出サス
ト
該山ヨリ堀出ス石炭ハ其場所ヨリ人夫之レヲ
擔フテ赤谷村迚運送シ其間凡ソ英二里ヲ距ツ
赤谷村ヨリ馬ニ乗セテ新発田迚輸送スル「ト
ス」○新発田ヨリハ船便ヲ以テ之レヲ新潟ニ廻
シ同所ニ於テ一擔ニ付大約二十五「セント」ニテ

販賣セラルヽモノナリ

此石炭ヲ燃焼スルトキハ其灰誠ニ細微ニシテ苟モ一点ノ灰燼ヲ残サス

此石炭ハ佐渡炭坑ノ開鑿ト新潟ニ於テ家事用ドノ為メニ使用スル所ニ係ル

畢竟此石炭ノ價値金リ高貴ナル所以ノモノハ炭坑ヨリ運送ノ法ト開鑿ノ量限リアルトニ據ルヿ疑ヲ容レス

尤モ炭坑ニ通スルニ一條ノ良道ヲ開キ加之赤谷ト新発田ヲ流レ、河ト(但シ船ヲ航通スルヿヲ得ル所)ノ間ニアル道路ヲ修理スルカ若クハ炭坑ヨリ該河迄車道ヲ設クルトキハ新潟ニ於ケル石炭ノ價値一層下落スヘキナリ

今日ノ如ク當海岸ニ於テ汽船航海ノ増加セル事アルニ於テハ斯ノ如キ其レ望ヲ期スヘキ炭坑開鑿ノ事業ヲ忽チニセサルヘカラサルヿ極メテ緊要ナルカ如シ

此他尚ホ越後国ニ於テ数ケ所ノ石炭産出場アリ却テ赤谷ニ於テアルモノヨリ一層便宜ノ位置ニ於テモ一ケ所位ハ開鑿スルニ足ル礦脈ヲ発

明スルヿヲ得ルハ期スヘシ○往年佐渡ニ於テ
発明セシ石炭ハ蒸気用ニハ不適当ノモノナリ
キ

目今新潟縣ノ所轄ハ前文既ニ金カ岡陳セシ津
川周圍ノ地方ヲ除クノ外越后全国ト之レニ加
フルニ佐渡島トニ跨ルモノナリ

越后中ニテ戸籍帳ニ載リタル人口ハ百三十八
万八千八百十二人ニシテ佐渡島ノ人口ハ十万
四千七百六十四人ナリ即チ両口ヲ合スレハ総
計百四十九万三千五百七十六人トナルナリ此

戸数二十九万二千八百九戸アリ

越后ノ地租ハ輓近一変シテ金納ニ定マル迄ハ
米納ナリシ一ヶ年平均大約四十三万六千石ニ
シテ即チ凡ソ百九万擔ナリ

新潟市中ノ人口ハ戸籍帳ニ載リタル者三万四
千三百九十四人ニシテ此戸数九千二百七戸ナ
リ尤モ当市中及ヒ港内船舶棄俎ノ人ニシテ一
時寄留ノ現負ヲ筭入セントスルハ蓋シ尚ホ二
千若クハ三千人ノ多キヲ加筭セスンハアルヘ
カラス

當港ハ斯ノ如キ人口多キ大国ヲ統轄スル中心ノ位置タルヲ以テ当港ニ於テハ市中ノ人別ニ載ラサル寄留人ノ方却テ市中ノ戸籍帳ニ名前アル人ニシテ目今不在ノ者ヨリ多数ナル丁常ナリトス是ヲ以テ当市中ノ人口ハ僅カニ四万ヲ下ルモノト定メテ可ナリ

當市中ハ新潟縣令ノ居住スル位置タルノ外ニ又縣下裁判ノ事務ヲ総理スル中心ニシテ加之上等裁判所ノ位置タリ○且又数ケ所ノ学校アリ内英語学校ト称アリテ目下校中ノ生徒大約百五十名アリ教師ハ英人ト米人トヲ掌ル

当市中ニハ又官立病院一ケ所アリテ欧醫一名ノ雇入レアリ

新潟ノ外尚ホ当国ニ於テ人口三千人ヨリ三万人ニ至ル市街大約二十三ケ所余アリ右ノ内大ナルモノハ高田、新発田、長岡及ヒ村上ナリ又大約一千人ヨリ三千人ニ至ル市街大約五十、三ケ所余アリ

前文既ニ記載シタル殖産ノ外ニ尚ホ当国ノ見附、亀田、長岡、白根、曽根、吉田、及ヒ大野ノ諸市街ニ

於テ木綿織物ヲ製産スルアリ
越中及ヒ加賀ノ諸地方ニ於テハ綿ヲ産出ス此等両国ニ於テ使用スル綿花木綿糸ハ其土地ニテ産スルモノヽ外尚ホ重モニ横濱若クハ大坂ヨリ海路ヲ経テ輸送スル所ニ係ル
絹織物ハ当国ノ五泉花ニ柘尾ニ於テ之レヲ製造ス
彼手軽キ麻製ノ布所謂縮ナルモノハ小千谷ニ於テ之レヲ製造ス
利器及ヒ鉄器、鉄釘ノ類ハ国内数ヶ所ヘ輸出スル為メニ燕及其他ノ場所ニ於テ之レヲ製ス
畢竟此業ノ今日該地ニ存スル所以ハ一ニ木炭ノ價値該地ニ低廉ナルニ據ルトスヘシ
漆器モ当国ニ於テ多少製造スルモノヽ如シアリト雖モ通例並ノ品ナリ會津ハ殊ニ之レヲ製スルノ地タリ
酒并ニ醤油ノ製造頗フル盛ナリ○当国製ノ陶器ハ品質下等ナリ○彼九谷ト唱フル陶器ハ加賀ノ製造ニ係リ甚タ高名ノモノナリ
工業ノ事、内国交通ノ事及ヒ其外ノ事

是迄数ケ年以内ニ新潟市中ハ従来ノ運河ヲ修
理シ且ツ更帽ヲ廣メ加之更ニ諸新街ヲ開キ以
テ一層清潔ヲ加ヘタリ
市中ノ上端ニアル一區ノ地所ヲ清潔トシテ之
レヲ公園ト定メタリ
夜間ハ諸街至ル処皆硝燈ヲ點セサルハナク其
数三百有余ニシテ其燈油ハ乃チ越后産ノ石脳
油ヲ使用ス
又更他当国ノ諸市街ニ於テ硝燈ノ数総計四百
有余アリ何レモ均シク当国産ノ石脳油ヲ使用

スルヶリ
諸裁判所并ニ諸学校共去ニヶ年間ニ当地ヘ建
設ニ成リ且ツ昨年ハ郵便局一ヶ所新設ニ相成
リタリ○今度新定ノ郵便規則ニ依レハ他ノ諸
地方トノ書信往復ノ便一層宜シキヲ加ヘタリ
試ニ例ヲ挙レハ横濱若クハ東京ヨリ発ノ信書
ハ夏分ナレハ三日間冬分ナレハ四五六日ニテ
当港ニ到達ス然リ然レ𪜈当郵便局ノ書信逓送
法ヲ今一層改正シテ尚ホ今日ヨリモ迅速ノ逓
送ヲ得セシムルニ至ルハ左程難事ニアラサル

べし

当港ヘノ電線架設ハ当夏中ニ落成ニ至ル由ニヲ兼知セリ○彼上野国高崎ヨリノ順路ハ所謂信州道ナルモノナリ是ヲ以テ電線ハ信州道ヲ経テ越後高田ニ至リ同所ヨリ沿海筋ヲ経テ新潟ニ達スヘキナリ

仮令ヒ当港ノ本街路ハ之レヲ日本国内ノ通市街ノ道路ト比較スレハ敢テ一歩ヲモ譲ラスト雖モ不幸ナルカナ当国内地ノ道路ニハ未タ修理ヲ加ヘサルナリ依テ冀クハ此等道路修理ノ事ニ多少ノ着手アランヿヲ

○最モ緊要ナル道路ハ三国通リカ若クハ清水通ヲ経テ高崎及ヒ東京ニ赴ク一道タルヿ明了ナリ実ニ此道路ハ東京迄ノ郵便通路ニシテ且ツ諸物品ヲ陸路運送スル為メ最大緊要ノ道路ナリ

東京ヨリ高崎迄早ク鉄道ヲ通セントノ策若シ行ハルヽニ於テハ宜ク此越後路ノ道路ニモ修理ヲ加テ以テ大ニ当港ト陸運ノ便ヲ容易ニセシムルヿヲ得ヘシ

新潟ト当国内緊要ノ諸地方トノ間ニ水運ノ便
極メテ善良ナルヲ以テ自然良道ヲ欠クモ之レ
ヲ痛惜スルヿ鮮少ナリ若シ水運ノ便斯ノ如ク
夫レ色リセハ痛惜ノ情蓋シ斯ノ如キ鮮少ナラ
サルヘキヤ疑ヲ容レス
今試ニ水運ノ便ヲ述ベンニ信濃川ハ遠ク六日
町迄船舶ヲ航通スルヲ得新潟ヨリ六日町ニ至
ル距離ハ大約七十五英里六日町ハ信濃川ノ上
流ナル右枝川ノ畔ニ位置ヲ占メ其左枝川即チ
本流ハ遠ク水澤迄航通スルヿヲ得但シ水澤ハ

十日町ノ上ニ在リテ新潟ヲ距ツルヿ始ント六
日町ト同一ナリ且又信州大瀧ヨリ上ノ方松代
迄航通スルヲ得此距離尚ホ大約四十英里アリ
是ヲ以テ水運ノ便ニ依リ廣ク諸物品ノ貿易ヲ
行フモノナリ
小形棄若流船五艘信濃川ニ往返ス即チ右ノ四
碩数三十二碩ノ流船ト十九碩ノ流船ト二艘新
潟ト長岡トノ間ニ日々往復ヲ為ス此間距離大
約四十英里ナリ二十九碩ノ流船一艘日々三條ニ
往復シ尚カ一層小形ノ流船二艘ハ日々燕ニ往

復ス

亜嘉ノ川ヲ経テ遠ク津川近川舟ヲ通シ以テ新潟ト諸物品ノ貴賈ヲ行フ但シ新潟ヨリ津川マテノ距離三十五英里以上ナリ

新発田及ヒ其他ヘ通スル諸小河ニハ小舟数艘間断ナク往復スルナリ

寺泊近傍ノ堀割ハ信濃川洪水之際河水新潟港ヘ流レ切ラスシテ地上ニ溢レ出ツルモノヲ放タシオンカ為メニ五六年以前ニ業ヲ興セシモノナリシカ現ニ閣下ノ承知セラルヽカ如ク至ク危地ニ属セリ実ニ此工業ニ付数万ノ費用ヲ要セシハ世人ノ能ク知ル処ナリ

仮令ヒ曾テ廣ク信濃川ノ測量ヲ為セシヿアリシト雖モ未タ以テ時々ノ水災ヲ防クヘキ一ノ良策ヲモ立テシヿヲ之レナシ例セハ千八百七十五年ノ水災ノ如キ更ニ其豫防ナシ然リト雖モ今年ハ此等緊要ノ工業ニ着手セル模様アリ

當港ノ景況

愚按スルニ当港ヲ経テ頗フル緊要ナル内国貿易ノ行ハルヽハ別紙ノ諸表ヲ以テ充分明瞭

ナルヿトス但シ此レ等ノ貿易ハ重モニ日本形船ヲ以テシ蒸汽船ヲ以テ為スモノハ誠ニ些少ナリ且又新潟ニ於テハ絶ヘス外国品ノ需要アルニ似タリ仮令ヒ其需ムル所巨額ナラスト雖トモ外国輸入品中重モナルモノ若干ヲ要スルモノヽ如シ而メ此等ノ需要品ハ半ハ海路ヲ輸送シテ供給シ軽量ノ品物ナレハ半ハ又陸路ヲ運送シテ供給ス即チ陸路ハ東京ヨリ距離大約二百二十英里ノ間辛苦ナル山道ヲ経テ輸送スルナリ

当港ハ重モニ米或ハ其他外国輸出ノ三四品ヲ輸出シ大ニ沿海貿易ヲ行フノ地タリ此他尚オ当港ト直チニ当港ノ背ニ方ル人口多キ諸地方トノ間ニ水運ノ便実ニ善良ナリ

然ルモ当港ニハ開港以来直接ノ外国貿易ナルモノハ未タ一回モ之レナシ

曾テ一両年間外国船ヲ以テ些少ノ沿海貿易ヲ為セシヿアリシト雖トモ今ハ全ク息ミ日本汽船ヲ以テ行フ所ノ沿海貿易モ些少ナリ既ニ昨年ノ如キハ之レカ為メ用ヒタル汽船ノ艘数ニ比

スレハ全ク比例ヲ失スルニ及ベリ

前文既ニ船舶出入ノ際危險ヲ冒スヿヲナカラスシテ大ニ艱難ニ遭遇スルヿヲ論述セシカ実ニ此等ハ余ノ喋々ヲ待スシテ能ク世人ノ知ル所ナリ

新潟ノ一開港場タル缺点ヲ補ハンカ為メニ実港ヲ同港ノ補助港トシテ使用セントセシカ遂ニ事成ラスシテ行ハレ難キモノヽ如シ故ニ唯左両策ノ内何レカ一策ヲ擇ムノ外道ナシ即チ当港ヲシテ全ク外国貿易ノ場所ニ適應セサル

モノト取定ムルカ若クハ当港ヲシテ外国船ノ出入アルモ差支ナカラシメンカ為メニ或ル方法ヲ設ルカ此二策而已

目下当港ト外商トノ間ニ取引ノ関係鮮少ナルヲ以テ仮令ヒ外国船出入ノ便ヲ得セシメンカ為メニ諸費用ヲ出スモ殆ント出入相償ヒ難キニ似タリ

抑新潟港修理ノ事ハ実ニ数回論及スル所ナルヲ以テ今復タ爰ニ必事ヲ掲載スルニ付テハ殆ント託言ヲ述ベサルヲ得サル程ナリ

余ヲ以テ之レヲ觀ルニ以上述フル所ノ両策ト
左ニ事（新潟ヲシテ西海岸ニ於ケル開港場タル
ヿヲ廢スルカ若クハ之レヲ其侭相存シテ殆ン
ト名義ノミ開港場ト為シ置クカ）ノ四ニ付擇フ
ノ外道ナシトス

閣下ノ了知セラルヽカ如ク長岡ヨリ当港ノ河
口及ヒ沙洲ノ処ニ至ル迄廣ク信濃川ノ測量相
済ミタリ而シテ余ハ其測量師ノ言ニ因リテ新
潟港ノ沙洲ハ僅カニ小土工ヲ起サハ其河内ニ
船舶ヲ出入セシムルニ足ルヿヲ知ル然リ然レ
ヒ蓋シ此事タル測量上ヨリ之レヲ推言セシモ
ノナレバ実際果シテ然ルヤ否ヤハ余ノ敢テ確言
スルヲ得サル所ナルモ姑ラク之レヲ然ルモノ
ト定ムルトキハ啻ニ経濟上ノ一点ニ付利害得
失ノ如何ヲ計ルノミ即チ斯ル土工ヲ起サハ隨
ツテ当国ハ申スニ及ハス廣ク沿海ノ諸地方ニ
モ一層ノ便益ヲ及ホシ終ニ当港ハ内外ノ貿易
ニ向テ至重至便ノ貿易場トナルニ至ラハ今日
土功ニ消費スル所ノモノ果シテ後計ノ算以テ
之レヲ償フニ足ルヘキヤ否ヤノ一点ニアリ

果シテ此土加工ヲ興サハ目下日本形船船ヲ以テ
当港ニ往来シ貿易ヲ為スモノヽ為メニ便益メ
ル昭々タリ是ヲ以テ其地ノ土着商及ヒ其他ノ
者共其土加工ヲ興シ後来ノ盛大ヲ謀ラシト欲ス
ルヤ又我輩ノ言ヲ俟タス如何トナレハ今一層
其海口ヲシテ物産(就中米)運輸ノ便ヲ得セシムレ
バ農業及ヒ其ノ他ノモノニ便益ヲ與フルハ言
ヲ俟テ然ル後之レヲ知ルモノニアラス果シテ
物産運輸ノ便一層宜シキヲ得ルニ至ラハ此港
ハ則チ今日ノ港ニアラスシテ外国ノ貿易ニ向

テハ之レカ中心トナリ隣ノテ少クトモ加賀越
中ノ要地ヨリ羽前羽後ノ僻境ニ至ルマテ輸入
品ヲ供給スルノ市場トナルヘシ加之米沢曾津
ノ如キ曾テ此ノ地開港ノ初メニ於テハ其物産
ヲ当港ニ輸送シ目下ハ絶テ販クセサルモノモ
又再ヒ内地ヨリ各其物産ヲ当港ニ回送スルニ
至ラン
目今新潟縣下ノ歳入中僅々ノ金額ハ此地ニ於
テ費用スル所タリト雖モ実ニ其歳入ハ巨額ナ
ルヲ以テ観察スルニ此土加工ノ如キ廣ク全地ニ

利潤ヲ及ホスモノヽ為メニ費用ヲ出スハ理財上ニ於テ真當ヲ失シタルモノヤ否ヤ又往来果シテ之レニ因リテ全地ノ農業ト商法トノ繁栄ヲ増殖シ以テ更費用ヲ償フモ尚ホ余リアルヤ否ヤハ宜ク日本政府ノ着目熟考ヲ要スル所ナリ

抑々当地ヘ鉄路ヲ架設スルノ策ハ宜ク将来永遠ノ時日ヲ経テ然ル後行フヘキモノタリ然レトモ吹地ニ一港ヲ開ク為メニハ欠クヘカラサルモノタリ余ヲ以テ之レヲ観ルニ此地ニ

一港ノ相存スルハ即チ鉄路ノ功ヲ奏スルノ一徴トナルヘシ之レ鉄路ヲ架設スルノ目的ハ獨リ越後地ノミナラス当沿海ノ諸地方ト往復ノ便ヲ得セシメンカ為メニ因テナリ

以上開陳スル所ハ到底此地ニ一港ヲ開設スル費用ノ如キ之レヲ公費ヲ以テセサルヘカラサルモノトシ論及セシ所ニ係ル然ルニ若シ此開港ノ事之レヲ測量上ヨリ見ルモ理財上ヨリ論スルモ事成シ難タ出入相償フヿヲ得サルモノタルヿ判然タラハ曾テ新潟港ハ当沿海ニ於ケル

外国貿易ノ一港タランカ為メニ開港場トナリ
シ目的ヲ全フセサルモノト認ムルコソ至当ナリ
ト思考スルナリ
昨年十二月三十一日ニ於テ外国人ノ員数ハ小
兒ヲ除キ二十一名ニシテ右ノ内十名ハ英国人
ニシテ即チ当領事館ノ邸内ニ居住ス但シ右ニ
十一名ノ内十八名ハ新潟ニ住シ残リ三名ハ佐
渡ニ住ス
右新潟住ノ十八名中僅カニ三名丈(何レモ日耳
曼人ナリ)ニ商賈ヲ設ケ引續キ貿易ヲ業トシ残

リノ数名ハ多クハ政府ニ雇入レラレタルモノ
又ハ傳教師ニ係ルナリ謹言

千八百七十七年　新潟英國領事館ニ於テ
二月十五日　英國領事
ゼイムス、トロープ

英国特命全権公使
サー、ハアリー、エス、パアークス　閣下

品

書籍	兵
白墨	計
掛時	衣
日本	織
水綿	巾
	金綿
	外國
	日本
水綿	糸
生綿	
利器	并鐵
日本	染料
塩魚	乾
硝子	
ランプ	
器械	
製藥	
金屬	
釘	鐵
方形,	圓形
鐵	板
古	鐵

第壹号

千八百七十六年間日本ノ港松ニテ新潟ヱ輸入セシ物品報告表

（日本ノ開港場ヨリ）

品名	數量		價	
書籍并地圖	ケイス	一二	弗	四七四
白墨	〃	三七	〃	八七〇
掛時計類	パッケイヂ	一〇	〃	二五五
日本衣類	〃	七七		九八一
木綿織物				
金巾	ベイル	四八	〃	五,〇七九
綿繻紋	〃	四	〃	二四六
外國産雜品	〃	一	〃	九〇
日本産雜品	パッケイヂ	二三	〃	一,七三一
木綿糸	ピコル	三四五	〃	一二,〇七五
生綿	〃	三四〇	〃	六,一〇八
利器并銃器			〃	一,四三三
日本染料	パッケイヂ	二七	〃	一,一二五
塩魚并乾魚			〃	三六八
硝子	ホッグス	二三九	〃	一,二六〇
ランプ	ケイス	二二	〃	八五八
器械			〃	二,〇四八
製藥			〃	三,〇七三
金屬				
釘銃	ピコル	二,六〇〇	〃	一〇,八一二
方形,圓形,平坦形,銃	〃	三六八	〃	一,四九八
銃板	〃	一八八	〃	一,二二二
古銃	〃	二四四	〃	七三〇

第壹号ノ續キ

品名	数量		價	
箍鐵	一四八 弗 七五六)	弗	九一四
古箍鐵	五六 弗 一六八)		
鋼鐵	ピュル	五〇半	〃	二二〇
鐵線	パッケイヂ	三五	〃	三五四
同	〃	一七一	〃	八〇一
新旧鐵線索	コイル	九八	〃	二〇四
諸鐵	パッケイヂ	一一二	〃	六二四
亜鉛	ピュル	一三半		一二六
錫延板	ボックス	九三	〃	七四四
銅線并黄銅線	パッケイヂ	二〇	〃	六三五
亜鉛延板	ボックス	三五	〃	四二七
魚油	チュブス	五一	〃	一六七
米國産石炭油	ケイス	一五二	〃	五三〇
塗油	〃	三九	〃	三九二
日本織物			〃	三五八
食料	〃	六四三	〃	一,三〇〇
学校用石板并石板用ペンシル	〃	九四	〃	六八八
内外文具				一,六六三
河蒸氣船			〃	八二〇
赤砂糖	ピコル	二,三三六	〃	九,三四四
白砂糖	〃	一,二五六	〃	九,三二五
氷砂糖	〃	二五	〃	三〇五
上茶	パッケイヂ	三五	〃	一,五五五
外國傘	〃	一一	〃	四二一
葡萄酒,ビヱール其外			〃	一,八五三
雜品			〃	七,九五四
			合計	九四,〇九〇弗

第貳号

千八百七十六年間日本船ニテ新潟ヨリ日本諸港エ輸出セシ物品報告表

品名	数量	価
古武器	バッケイヂ 一,〇七五	弗 三,〇〇
日本衣類	〃 一四三	〃 二,三〇三
日本桐油	〃 七四	〃 六五七
銅	ピコル 一〇七四	〃 一九,七四二
利器及銃器	バッケイヂ 四八四	〃 八,四二三
漆器	〃 三	〃 一〇〇
陶器	〃 一七五	〃 三一八
梨	ボックス 一,〇一六	〃 五六八
林檎	〃 二三七	〃 一五〇
其外諸菓物	〃 一六二	〃 七〇
日本器具類	バッケイヂ 二八	〃 九〇〇
麻	〃 一三六	〃 一,七〇八
麻糸及麻網	〃 三八	〃 二三〇
鉄釘	ピコル 八一	〃 一,二一五
未製漆	チュブ 九九ピコル 五三	〃 一,五一三
精製漆	〃 四一	〃 七四五
漆器	ボックス 六二	〃 三八四
鉛	ピコル 二八半	〃 二六二
日本製藥	バッケイヂ 二六	〃 六六三
種油	チュブ 五九	〃 二四一
精製石脳油 (殆ト四ガルロン)	〃 九二	〃 一三〇
日本織物	バッケイヂ 二〇二	〃 七,四六八
食料	〃 七〇九	〃 一,四六四
胆脂	ボックス 七一	〃 四七一
酒類	チュブ 六一八	〃 六四一
焼酒	〃 一四一	〃 七七
醤油	〃 三九二	〃 一八八
茶	バッケイヂ三一〇即チ二弗 一二三	〃
	ピコル 七七半即チ一弗 五四九	〃 三,六七二
雑品		〃 一,五八三
		合計 弗 五八,八五〇

第三号

千八百七十六年間日本形松ニテ新潟エ輸入セシ重モナル物品表

（邦内諸港ヨリ）

品名	數量	價 弗
日本生綿	ピユル 五,二九〇	一一六,三八〇
日本銑并鋼銑	円 六,七〇〇	三〇,一五〇
外國釘銑	円 四二〇	一,六八〇
日本紙	バッケイヂ 二,六七〇	三二,〇四〇
日本米（輸入セシ極メテ例外ナリ）	ピユル 九六,五八五	一三五,二一九
塩	円 一七〇,七六〇	一〇二,四五六
日本白砂糖	円 三,九七七	三九,七七〇
日本黒砂糖	円 七,一六五	四六,五七二
日本糖蜜	円 一,二四三	四,九七二
支那白砂糖	円 一,〇八〇	八,六四〇
支那赤砂糖	円 一,二三二	五,五四四
日本水蠟	円 三,六八六	四〇,五四六
雜品	バッケイヂ 四五,六〇〇	不詳
		合計 五六三,九六九弗

第四号

外國貿易ノ為メニ當港ヲ開キシ以來諸形商船ヲ以テ取行フタル貿易高摘要（但シ沿海貿易ノミ）

（輸入ノ部甲）

年	英船ニテ	外國船ニテ（日本船ヲ除キ）	合計	外國ニテ造船セシ日本汽船及ヒ帆前船ニテ	日本形船舶ニテ	合計	内外諸形船ヲ以テセシ合計
千八百六十九年	弗四五七,四七一	弗八五,〇〇〇	弗五四二,四七一		弗一,五七六,七九二	弗一,五七六,七九二	弗二,一一九,二六三
千八百七十年	二八一,六三五	一二三,四四〇	四〇五,〇七五	弗五,四四四	一,五六〇,六三五	一,五六六,〇七九	一,九七一,一五四
千八百七十一年	八三,三四六	二一,八八八	一〇五,二三四	二八,三八六	九九九,九〇四	一,〇二八,二九〇	一,一三三,五二四
千八百七十二年	五〇,一〇八		五〇,一〇八	二,一一四	一,〇一五,四三九	一,〇一八,五五三	一,〇六八,六六二
千八百七十三年		五,二九二	八五,二九二	二九,七八六	一,五四三,九七〇	一,五七三,七五六	一,六二九,〇四八
千八百七十四年	一四二,一六八	一八,九七二	一六一,七四〇	三三,四九二	一,〇〇三,〇二六	二,〇三六,五一八	二,一九八,二五八
千八百七十五年	六〇,九六八		六〇,九六八	九一,二〇〇	一,五一二,六五六	一,六〇三,八五六	一,六六四,八二四
千八百七十六年				九四,〇九〇	五六三,九六九		

（輸出ノ部乙）

年	英船ニテ	外國船ニテ（日本船ヲ除キ）	合計	外國ニテ造船セシ日本汽船及ヒ帆前船ニテ	日本形船舶ニテ	合計	内外諸形船ヲ以テセシ合計
千八百六十九年	弗一六七,五〇一	弗一〇,〇〇〇	弗一七七,五〇一		弗一,七九三,二九七	弗一,九七〇,七九八	弗一,九七〇,七九八
千八百七十年	一一四,二八四	一一三,一六四	二二七,四四八	弗三〇,四四〇	一,〇七六,七七八	一,一〇七,二一八	一,三三四,六六六
千八百七十一年	一,二七六	二,一七二	三,四四八	三八,八八六	九四[illegible],二九〇	九八五,一七六	九八八,六二四
千八百七十二年	八,九一八		八,九一八	一八,一一〇	五[illegible],七六〇	六一七,八七〇	六二六,七八八
千八百七十三年		二,七一四	二,七一四	三三,[illegible]七六	[illegible]	一,三四五,七一〇	一,三四八,四二四
千八百七十四年	四〇,三四三	二,六九二	四三,〇三五	五四,七二二	一,七〇〇,六四〇	一,七五五,三六二	一,七九八,三九七
千八百七十五年	一四,五五八		一四,五五八	一一六,八〇六	一,一三五,二四六	一,二六二,〇五	一,二七六,六一〇
千八百七十六年				五八,八五〇			

第五号

千八百六十九年ヨリ千八百七十六年ニ至ル迄日本國諸港ヨリ新潟ヘ輸入セシ砂糖銕塊及ヒ生綿ノ數量并ニ價値一覽表

年	砂糖		銕										生綿	
			釘銕		圓形,平坦形,四角形,箍形,銕塊板類		日本銕		下等銕及古銕		合計			
	數量	價値	數量	價値	數量	價値	數量	價値	數量	價値	數量	價値	數量	價値
	ピコル	弗	ピコル	弗	ピコル	弗	ピコル	弗	ピコル	弗	ピコル	弗	ピコル	弗
千八百六十九年	二四,三九六	二〇七,四四〇	一,五〇〇	五,二五〇						六〇,一八四		六五,四三四	三,二三八	一五一,四〇四
千八百七十年	一三,三三六	九八,六一三	三,七六一	一五,一五四			八,三七五	三三,五〇〇			一二,一三六	四八,六五四	二,七五六	八五,九二九
千八百七十一年	一六,七五五	一六,八八二	一,四二五	五,七〇〇			五,一二四	二〇,四九六	一一三	二四〇	六,六六二	二六,四三六	四,一九七	八三,九四〇
千八百七十二年	一六,六三八	一二六,五一〇	一,三二四	九,九五〇			三,九〇七	二五,一八〇	二二〇	六六〇	五,四五一	三五,七九〇	一,四八六	二九,七三〇
千八百七十三年	二二,三四五	一六三,二七八	二,二二三	一三,三三八			六,九四一	四一,六七六			九,一六四	五五,〇一四	五,〇〇五	一二〇,一一[illegible]
千八百七十四年	一二,七三二	一一二,七一八	三,二一二	一九,六三九	五四	三五五	一三,九七二	九〇,八〇四	三,二二五	一〇,三二五	二〇,四六三	一二八,一一三	四,二三二	八四,六四四
千八百七十五年	二三,三三八	一八四,五六五	五,二九〇	二六,四五〇	一,二六三	五,七一〇	一六,八六五	七一,一八七	二,九〇二	八,七〇五	二六,三二〇	一一二,〇五二	四,九二三	一〇一,五九七
千八百七十六年	一八,三一四	一二四,四七二	三,〇二〇	一二,四九二	八一〇	三,八六四	六,七〇〇	三〇,五〇〇	二四四	七三	一〇,七七四	四七,三三六	五,六三〇	一二二,〇八八

第六号

千八百六十九年ヨリ千八百七十六年ニ至ル迄新潟ヨリ日本國内諸港ヘ輸出シタル米ノ数量并ニ價値

年	数量	價値	年	数量	價値
千八百六十九年	ピコル一三九,八九一余	弗四五三,七一一	千八百七十三年	ピコル五三二,九五六	弗六七六,〇一四
千八百七十年	〃三〇九,九七八	七八三,三五七	千八百七十四年	〃四七九,七五七	九八四,四三五
千八百七十一年	〃三一一,八八四	四六七,八二六	千八百七十五年	〃三八二,四九三	七九五,七六〇
千八百七十二年	〃三五六,二四五	四四八,七九〇	千八百七十六年	〃七〇,〇〇〇	九三,一一〇〇

第七号

新潟ニ於テ外國貿易ヲ取開キシ以来入港ノ諸形船ノ艘数并ニ噸数

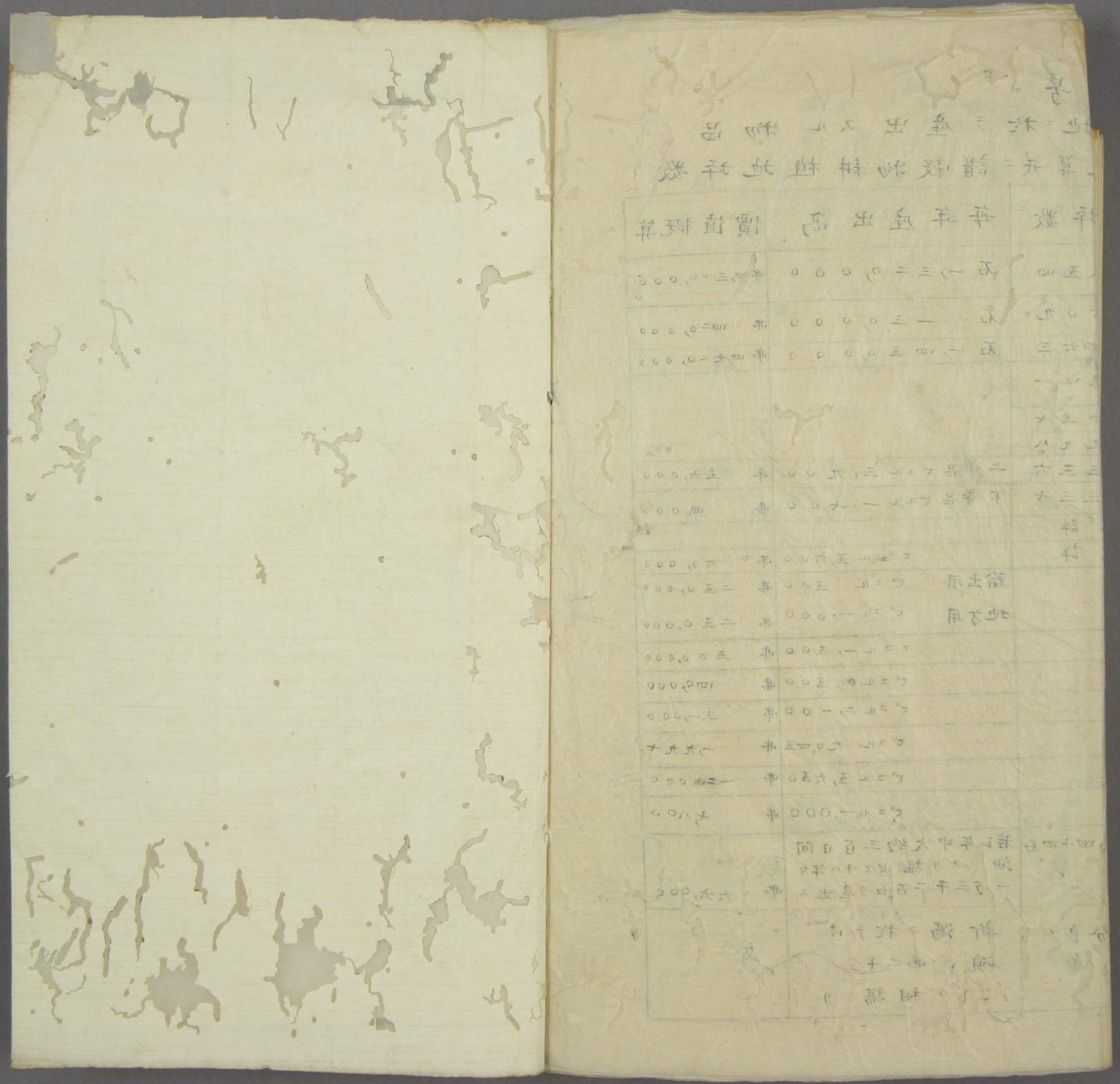
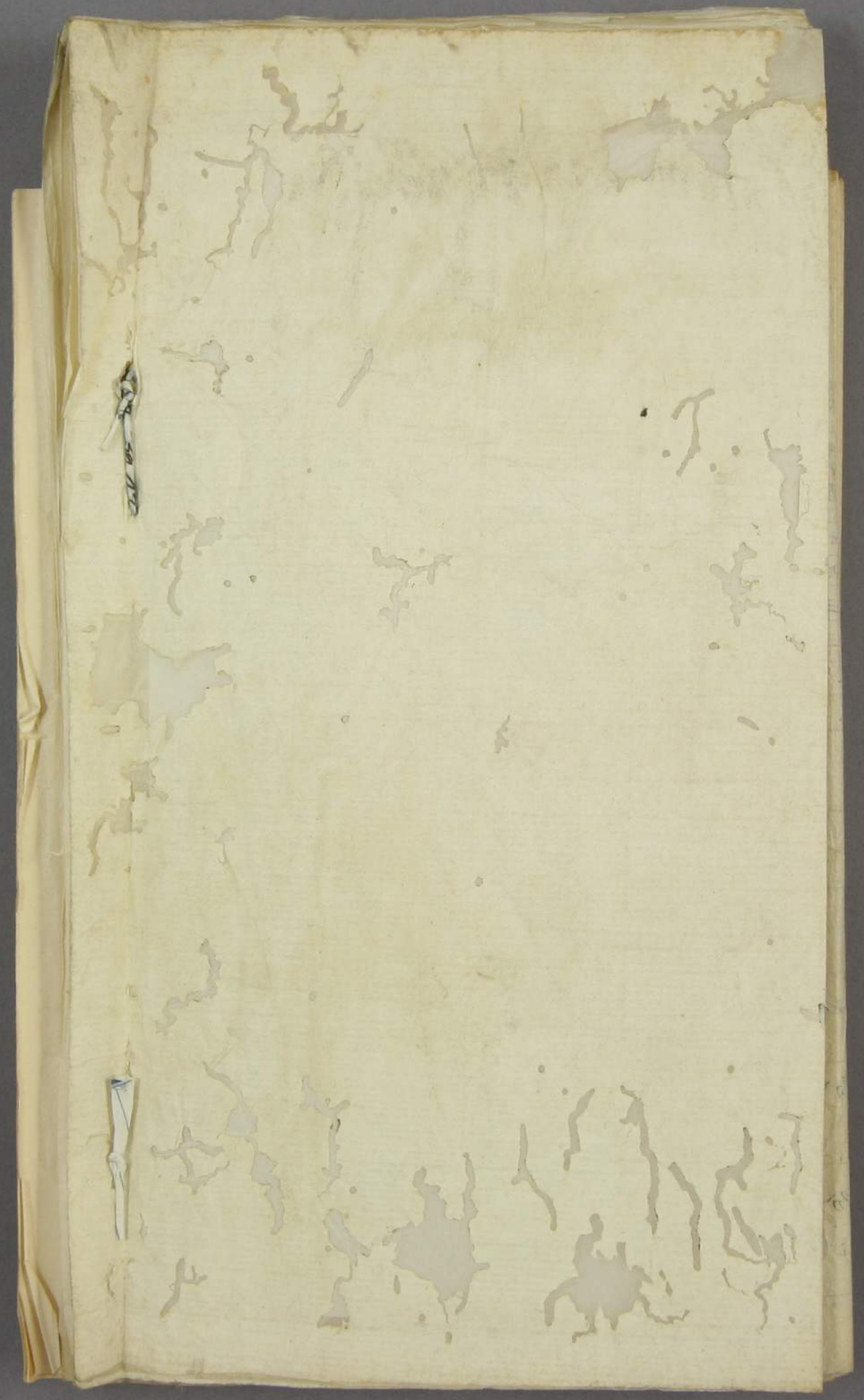
年	英船		外國船（日本船ヲ除ク）		日本船			
					外國造船ノ汽船及ビ帆前船		日本形船	
	艘数	噸数	艘数	噸数	艘数	噸数	艘数	噸数
千八百六十九年	一四	四,九四四	四	一,〇九六	四		二,八六九	八二,八〇七
千八百七十年	一二	五,九五一	一三	九,五五五	八	五,三九一	三,三三二	七九,九四〇
千八百七十一年	二	七二五	一	五九八	九	二,五八八	二,五二八	七八,六二二
千八百七十二年	一	一九四	〇	〇	二	八六六	二,四四四	六〇,〇一二
千八百七十三年	〇	〇	三	五,一〇〇	三	八七四	四,六九三	七〇,〇三〇
千八百七十四年	五	一,五六二	一	一,九一四	二	一,六一六	四,四六三	六四,八三六
千八百七十五年	二	八三四	〇	〇	九	四,四三六	三,一九八	五八,〇一八
千八百七十六年	〇	〇	〇	〇	一五	六,四二八	四,三五〇	

第八号

千八百七十三年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄新潟縣下諸港ニ於テ造船セシ五十石積以上ノ日本形船艘数

年	日本形船艘数	石数
千八百七十三年	九八	一四,九九一
千八百七十四年	八〇	二一,[illegible]五
千八百七十五年	一一九	[illegible]〇,[illegible]八〇

第九号

新潟縣下及ヒ其近傍諸地ニ於テ産出スル物品内重モナルモノ毎年産出高概算并ニ諸穀物耕植地坪数

品名	地方	耕地坪数	毎年産出高	價値概算
米	新潟縣越後ニ於テ	町 六五,八五四	石 一,三二〇,〇〇〇	弗 四,三〇〇,〇〇〇
同	同佐渡ニ於テ	町 六,六〇九	石 一三〇,〇〇〇	弗 四二〇,〇〇〇
小麥、大麥、粟、玄蕎麥、根物、芋、凡ソ米ノ外ノ諸穀物	新潟縣合計	町 七二,四六三	石 一,八四五〇,〇〇〇	弗 四,七二〇,〇〇〇
	新潟縣越後ニ於テ	町 五八,五四一		
	同佐渡ニ於テ	町 四,四五七		
茶	新潟縣合計	町 六二,九九八		
	新潟縣越後村上近傍ニ於テ	町 三三六	上中品ピュル三,九〇〇	弗 五六,〇〇〇
茶	同村松及ヒ新津近傍	町 三三七	下等品ピュル一,七〇〇	弗 四,〇〇〇
茶	同黒川及ヒ新発田近傍	不詳		
生糸	新潟縣合計	不詳	ピュル五,六〇〇	弗 六〇,〇〇〇
	新潟縣越後堀ノ内、坊尾、五泉、村上其外諸地ニ於テ		輸出用 ピュル 五〇〇 地方用 ピュル一,〇〇〇	弗 二五〇,〇〇〇 弗 二五〇,〇〇〇
麻	新潟縣合計		ピュル一,五〇〇	弗 五〇〇,〇〇〇
	新潟縣越後与板、長岡、見附ニ於テ		ピュル二,五〇〇	弗 一四〇,〇〇〇
銅	越後久佐倉及ヒ其他ノ礦山ニ於テ		ピュル二,一〇〇	弗 三一,〇〇〇
銅	佐渡鑛山ニ於テ		ピュル九〇,四五	弗 一,九九七
銅	秋田鑛山ニ於テ		ピュル五,六五〇	弗 一二〇,〇〇〇
鉛	秋田鑛山ニ於テ		ピュル一,〇〇〇	弗 七,八〇〇
石脳油	新潟縣高田、建野、松山、妙法寺、黒川、新津其外ニ於テ	日々ノ産出高四十四石ナリ	若シ年中大約三百日間油ヲ堀出ストキハ年々一万三千二百石ヲ産出ス	弗 六六,〇〇〇
石炭	新潟縣越後赤谷ニ於テ	石炭ノ質分良ク開鑿方難シ	新潟ニ於テ代 碩ニ弗二十三 ントノ相場ナリ